

8:1 小羊が第七の封印を解いたとき、天に半時間ばかり静けさがあった。 8:2 それから私は、神の御前に立つ七人の御使いを見た。彼らに七つのラッパが与えられた。 8:3 また、もうひとりの御使いが出て来て、金の香炉を持って祭壇のところに立った。彼にたくさんの香が与えられた。すべての聖徒の祈りとともに、御座の前にある金の祭壇の上にささげるためであった。 8:4 香の煙は、聖徒たちの祈りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った。 8:5 それから、御使いは、その香炉を取り、祭壇の火でそれを満たしてから、地に投げつけた。すると、雷鳴と声といわずまと地震が起こった。 8:6 すると、七つのラッパを持っていた七人の御使いはラッパを吹く用意をした。 8:7 第一の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、血の混じった雹と火とが現れ、地上に投げられた。そして地上の三分の一が焼け、木の三分の一も焼け、青草が全部焼けてしまった。 8:8 第二の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、火の燃えている大きな山のようなものが、海に投げ込まれた。そして海の三分の一が血となった。 8:9 すると、海の中にいた、いのちのあるものの三分の一が死に、舟の三分の一も打ちこわされた。 8:10 第三の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、たいまつのように燃えている大きな星が天から落ちて来て、川々の三分の一とその水源に落ちた。 8:11 この星の名は苦よもぎと呼ばれ、川の水の三分の一は苦よもぎのようになった。水が苦くなったので、その水のために多くの人々が死んだ。 8:12 第四の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、太陽の三分の一と、月の三分の一と、星の三分の一とが打たれたので、三分の一は暗くなり、昼の三分の一は光を失い、また夜も同様であった。 8:13 また私は見た。一羽の鷲が中天を飛びながら、大声で言うのを聞いた。「わざわいが来る。わざわいが、わざわいが来る。地に住む人々に。あと三人の御使いがラッパを吹き鳴らそうとしている。」

9:1 第五の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、私は一つの星が天から地上に落ちるのを見た。その星には底知れぬ穴を開くかぎが与えられた。 9:2 その星が、底知れぬ穴を開くと、穴から大きな炉の煙のような煙が立ち上り、太陽も空も、この穴の煙によって暗くなった。 9:3 その煙の中から、いなごが地上に出て来た。彼らには、地のさそりの持つような力が与えられた。 9:4 そして彼らは、地の草やすべての青草や、すべての木には害を加えないで、ただ、額に神の印を押されていない人間にだけ害を加えるように言い渡された。 9:5 しかし、人間を殺すことは許されず、ただ五か月の間苦しめることだけが許された。その与えた苦痛は、さそりが人を刺したときのような苦痛であった。 9:6 その期間には、人々は死を求めるが、どうしても見いだせず、死を願うが、死が彼らから逃げて行くのである。 9:7 そのいなごの形は、出陣の用意の整った馬に似ていた。頭に金の冠のようなものを着け、顔は人間の顔のようであった。 9:8 また女の髪のような毛があり、歯は、獅子の歯のようであった。 9:9 また、鉄の胸当てのような胸当てを着け、その翼の音は、多くの馬に引かれた戦車が、戦いに馳せつけるときの響きのようであった。 9:10 そのうえ彼らは、さそりのような尾と針とを持っており、尾には、五か月間人間に害を加える力があつた。 9:11 彼らは、底知れぬ所の御使いを王にいただいている。彼の名はヘブル語でアバドンといい、ギリシヤ語でアポリュオンという。 9:12 第一のわざわいは過ぎ去った。見よ。この後なお二つのわざわいが来る。 9:13 第六の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、私は神の御前にある金の祭壇の四隅から出る声を聞いた。 9:14 その声がラッパを持っている第六の御使いに言った。「大川ユーフラテスのほとりにつながれている四人の御使いを解き放せ。」 9:15 すると、定められた時、日、月、年のために用意されていた四人の御使いが、人類の三分の一を殺すために解き放された。 9:16 騎兵の軍勢の数は二億であった。私はその数を聞いた。 9:17 私が幻の中で見た馬とそれに乗る人たちの様子はこうであった。騎兵は、火のような赤、くすぶった青、燃える硫黄の色の胸当てを着けており、馬の頭は、獅子の頭のように、口からは火と煙と硫黄とが出ていた。 9:18 これらの三つの災害、すなわち、彼らの口から出ている火と煙と硫黄とのために、人類の三分の一は殺された。 9:19 馬の力はその口とその尾とにあつて、その尾は蛇のようであり、

それに頭があつて、その頭で害を加えるのである。 9:20 これらの災害によって殺されずに残った人々は、その手のわざを悔い改めないで、悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造られた、見ることも聞くことも歩くこともできない偶像を拝み続け、 9:21 その殺人や、魔術や、不品行や、盗みを悔い改めなかった。

導入

今回は、8章と9章をまとめて学ぶことにしました。ラッパが吹かれた後の裁きを一連のものとして考えるためです。

第5と第6のラッパの裁きは非常に残酷な内容ですが、これらの裁きはたいへん厳しいものですから、抜きにして考えることはできません。

1. 静けさの力 (1-2 節)

8章の冒頭には、イエスが第七の封印を開くと、天に半時間ほど静けさがあったと記されています。それはおそらく、8-9章に記されたラッパの裁きや16章に登場する鉢の裁きが注がれるのを前に、恐れが起こったからでしょう。

これが最後に開かれる封印です。

ですから、何が起ころうとしているか誰もがわかっていました。

30分間の静けさを理解するには、この静けさの前になんと書いてあるかに注目することです。

そこには、「小羊が第七の封印を解いたとき」とあります。

つまり、封印されていた内容が解き明かされたときに静まったわけです。

7つのラッパと7つの鉢の裁きは非常に恐ろしいものだったので、天に集まった群衆は半時間静まったのです。

30分はそれほど長い時間ではないように思えるかもしれませんが、この状況ではずいぶん長く感じたのではないのでしょうか。

今私が5分間話すのをやめたとしたらどうでしょう。すごく長く感じるのではないのでしょうか。

もし15分話すのをやめたら、もっと長く感じるでしょう。

裁きの激しさに、人々は言葉を失ったのです。

家族や友人など身近な人の急死など、突然の悪い知らせにはどんな言葉も適切でないように思えます。

あまりのショックで何と言えよいかわからなくなります。

天が静まったのも、誰も何と言えよいかわからなかったからでしょう。

ついに神の裁きが下り、人々は静まって立ち尽くすしかすべがありませんでした。

2. 聖徒たちの尊い祈り (3-4 節)

3-4 節では、金の香炉を持つもうひとりの御使いが出てきて、金の祭壇のところに立ちます。この御使いは、たくさんの香を与えられました。すべての聖徒たちの祈りとともに香を神にささげるためです。香の煙は聖徒たちの祈りとともに御使いの手から神の御前に上っていきました。神の裁きが注がれる前は、祈祷会にふさわしいタイミングです。

アメリカ人作家トーランスはこのように語りました。

「この世で猛威を振るうどんな暗闇の力よりも、神の炎を与えられて地上に投げられた祈りは力強いのです。」

もし、ここに記された裁きのような災害がまもなく日本に起ころうとしていると知ったなら、皆さんも祈祷会を開くでしょう。

実際、それが私たちにできる最善のことです。

祈りの課題が何であれ、確かなことは、どんな状況でも祈ることこそ私たちにできる最善のことなのです。

私たちクリスチャンは、常に「祈りに満ちた人」であるべきです。

昔、英国にリバイバルをもたらすために神が用いられたチャールズ・ウェスレーは言いました。

「神は、祈りの答え以外に何もなさらない。」

彼の真意は、神に働いていただきたいと思うなら、祈らなくてはならないということです。

祈りがどのように働くかはわからなくても、祈りに効き目があることは分かっています。ですから、祈りに満ちた人になりましょう。

3. 6つのラッパの裁き (8:7-9:21)

では、6つのラッパの裁きを8章7節から9章21節で学びましょう。

聖書をよく読んでいる人は、エジプトの災いとこれらの裁きの類似点に気づくでしょう。

エジプトの災いは、エジプトの人々や彼らの神々に対する神の裁きでした。

一方、ここに記された裁きは、全世界に向けられた裁きです。

最初の4つの裁きは読んだとおりですので、それほど説明は要らないでしょう。

第一のラッパ

第一のラッパが吹き鳴らされると、地上の木の3分の1と青草が焼けました。これは、血の混じったひょうと火が原因です。

これは、エジプトの第7の災いと似ています。

出エジプト 9:13-18

9:13 【主】はモーセに仰せられた。「あしたの朝早く、パロの前に立ち、彼に言え。へブル人の神、【主】はこう仰せられます。『わたしの民を行かせ、彼らをわたしに仕えさせよ。 9:14 今度は、わたしは、あなたとあなたの家臣とあなたの民とに、わたしのすべての災害を送る。わたしのよな者は地のどこにもいないことを、あなたに知らせるためである。 9:15 わたしが今、手を伸ばして、あなたとあなたの民を疫病で打つなら、あなたは地から消し去られる。 9:16 それにもかかわらず、わたしは、わたしの力をあなたに示すためにあなたを立てておく。また、わたしの名を全地に告げ知らせるためである。 9:17 あなたはまだわたしの民に対して高ぶっており、彼らを行かせようとしなさい。 9:18 さあ、今度は、あすの今ごろ、エジプトにおいて建国の日以来、今までになかったきわめて激しい雹をわたしは降らせる。

出エジプト 9:23-24

9:23 モーセが杖を天に向けて差し伸ばすと、【主】は雷と雹を送り、火が地に向かって走った。

【主】はエジプトの国に雹を降らせた。 9:24 雹が降り、雹のただ中を火がひらめき渡った。建国以来エジプトの国中どこにもそのようなことのなかった、きわめて激しいものであった。

この災いがエジプトで起こったとき、エジプトは神を神とも思わない世の中心でした。ですから、神が同じ裁きを下されるのは理解できます。ただし、今回は全世界規模の裁きです。

黙示録 8-9 章で「三分の一」という表現が 13 回登場します。

この世界の「三分の一」とは、そのときに「反キリスト」が支配している地域を指すと考える聖書学者もいます。

その可能性もありますが、ここで重要なのは、裁きが世界の三分の一に限られているという事実です。

第二のラッパ

この裁きでは、海の三分の一が血となりました。海の中にいた三分の一の生き物が死に、三分の一の舟も破壊されました。

これは、エジプトの第一の災いと似ています。
今回は読みませんが、これについて記されているのは出エジプト7：19-21です。

第三のラッパ

この裁きでは、川の三分の一とその水源が汚染されました。これは、「苦よもぎ」（ヘブル語の意味は「呪い」）と呼ばれる星が原因です。

「ニガヨモギ」と呼ばれる薬草がありますが、これらは苦くて、有毒なものもあります。
ですから、この地域に住んでいた人々は、水を飲むことができなくなります。
では、エレミヤ9：14-15を読みましょう。

エレミヤ9：14-15

9:14 彼らのかたくなな心のままに歩み、先祖たちが彼らに教えたバアルに従って歩んだ。」 9:15 それゆえ、イスラエルの神、万軍の【主】は、こう仰せられる。「見よ。わたしは、この民に、苦よもぎを食べさせ、毒の水を飲ませる。

エレミヤは、いつの日かイスラエルが苦い水を飲むことになると預言しました。
旧約聖書の預言の多くが驚くほど黙示録と関連しています。
神はご自身のタイミングと方法で働かれます。けれども、来たるべき裁きについては、必ず人々に前もって警告してくださいませ。

第四のラッパ

4つめの裁きは、月と星と太陽にくだりました。これは、日中の三分の一が暗くなり、夜の三分の一がまったくの暗闇になるという意味です。

第4のラッパの裁きは、イエス・キリストが語られた預言の成就です。
ルカ21：25-26を読みましょう。

ルカ21：25-26

21:25 そして、日と月と星には、前兆が現れ、地上では、諸国の民が、海と波が荒れどよめくために不安に陥って悩み、 21:26 人々は、その住むすべての所を襲おうとしていることを予想して、恐ろしさのあまり気を失います。天の万象が揺り動かされるからです。

次に、アモス8：9を読みましょう。

アモス 8:9 その日には、——神である主の御告げ——わたしは真昼に太陽を沈ませ、日盛りに地を暗くし、

さて、黙示録の非常に恐ろしい部分にやってきました。

これは、8章13節で御使いが告げる裁きです。

御使いは、地上の人々に災いが来ると3度告げます。「災い」の部分は、「恐怖」と訳すこともできます。

つまり、あまりにもひどい恐怖がやって来るので、3倍の警告が必要だったのです。

「大患難」の中盤に入り、その時期には決定的な出来事が起こります。

第五のラッパ

5つめの裁きには12節分が費やされています。

この裁きについて詳しい情報が与えられているので、重要です。

1節で、ヨハネは天から地上に「星」が落ちるのを見ました。

「天から落ちた星」と表現された人物が過去にいて、この人物に底知れぬ穴を開くかぎが与えられました。

さて、「暁の子」は輝きとか夜明けの星という意味があります。

この「暁の子」こそ、悪魔、サタンの別名です。

イザヤ書 14 : 12-15 を読むと、暁の子の起源がわかります。

イザヤ書 14 : 12-15

14:12 暁の子、明けの明星よ。どうしてあなたは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしてあなたは地に切り倒されたのか。 14:13 あなたは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山にすわろう。 14:14 密雲の頂に上り、いと高き方のように上ろう。』 14:15 しかし、あなたはよみに落とされ、穴の底に落とされる。

エゼキエル 28 : 11-19 を読むと、その全体像が見えてきます。

エゼキエル書 28 : 11-19

28:11 次のような【主】のことばが私にあった。 28:12 「人の子よ。ツロの王について哀歌を唱えて、彼に言え。神である主はこう仰せられる。あなたは全きものの典型であった。知恵に満ち、美の極みであった。 28:13 あなたは神の園、エデンにいて、あらゆる宝石があなたをおおっていた。赤めのう、トパーズ、ダイヤモンド、緑柱石、しまめのう、碧玉、サファイヤ、トルコ玉、エメラルド。あなたのタンバリンと笛とは金で作られ、これらはあなたが造られた日に整えられていた。 28:14 わたしはあなたを油そそがれた守護者ケルブとともに、神の聖なる山に置いた。あなたは火の石の間を歩いていた。 28:15 あなたの行いは、あなたが造られた日からあなたに不正が見いだされるまでは、完全だった。 28:16 あなたの商いが繁盛すると、あなたのうちに暴虐が満ち、あなたは罪を犯した。そこで、わたしはあなたを汚れたものとして神の山から追い出し、守護者ケルブが火の石の間からあなたを消えうせさせた。 28:17 あなたの心は自分の美しさに高ぶり、その輝きのために自分の知恵を腐らせた。そこで、わたしはあなたを地に投げ出し、王たちの前に見せものとした。 28:18 あなたは不正な商いで不義を重ね、あなたの聖所を汚した。わたしはあなたのうちから火を出し、あなたを焼き尽くした。こうして、すべての者が見ている前で、わたしはあなたを地上の灰とした。 28:19 国々の民のうちであなたを知る者はみな、あなたのことでおののいた。あなたは恐怖となり、とこしえになくなってしまう。」

ですから、暁の子が天から追い出され、神が暁の子に底知れぬ穴を開くかぎを与えられたのです。では、底知れぬ穴とは何でしょう。

今度は、ルカ 8 : 26-31 を読みましょう。

ルカ 8 : 26-31

8:26 こうして彼らは、ガリラヤの向こう側のゲラサ人の地方に着いた。 8:27 イエスが陸に上がられると、この町の者で悪霊につかれている男がイエスに出会った。彼は、長い間着物も着けず、家には住まないで、墓場に住んでいた。 8:28 彼はイエスを見ると、叫び声をあげ、御前にひれ伏して大声で言った。「いと高き神の子、イエスさま。いったい私に何をしようというのです。お願いします。どうか私を苦しめないでください。」 8:29 それは、イエスが、汚れた霊に、この人から出て行け、と命じられたからである。汚れた霊が何回となくこの人を捕らえたので、彼は鎖や足かせでつながれて看視されていたが、それでもそれらを断ち切っては悪霊によって荒野に追いやられていたのである。 8:30 イエスが、「何という名か」とお尋ねになると、「レギオンです」と答えた。悪霊が大ぜい彼に入っていたからである。 8:31 悪霊どもはイエスに、底知れぬ所に行け、とはお命じになりませんようにと願った。

悪霊にとりつかれていた男性を支配していた大勢の悪霊たちは、底知れぬ穴に行くのを恐れました。

黙示録の「底知れぬ穴」とルカの「底知れぬ所」は同じ単語です。
底知れぬ穴は地獄ではありません。悪霊たちが捕らえられる場所です。
暁の子は底知れぬ穴を開くかぎを与えられ、それを開けました。
すると、たくさんの煙が出てきて、そのせいで太陽も大気も暗くなりました。
これもまた、エジプトの災いを連想させる内容です。
出エジプト 10 : 21 を読みましょう。

出 エジプト 10:21 【主】はモーセに仰せられた。「あなたの手を天に向けて差し伸べ、やみがエジプトの地の上に来て、やみにさわられるほどにせよ。」

この底知れぬ穴からは悪い物しか出てこないことがはっきりしました。
3節には、穴からいなごが出てきて、さそりのような力が与えられたとあります。
ここで、いなごとさそりについて知る必要があります。
いなごもさそりも原産国はイスラエルです。
さそりは 20センチほどの大きさになることもあります。
さそりの武器は、しっぽの先にある針です。
聖書では、厳しい裁きを表現する比喻としてさそりやいなごが使われます。
(申命記 28 : 38,41、列王記第一 12 : 11-14)

いなごはイスラエルではなじみ深い生物でした。
バッタと同じくらいの大きさですが、大量発生すると、短期間で田畑を荒らすほどの威力があります。
1平方キロメートルあたり 4 千万～8 千万という大群で農作物を食い荒らすのです。

しかし、この個所に登場するいなごは、農作物を荒らすものではありません。地上で神の印を押されていない人にだけ害を与えるのです。
先週の学びで、神が 14 万 4000 人の人たちに印を押されたので、その人たちは大患難の期間中も被害を受けないと学びました。
このいなごによる苦痛は、死んだほうがましだと思えるほどひどいものです。(6 節)
けれども、5 か月間苦しまなければならないと記されています。
5 か月というのは、いなごの平均的な寿命です。ですから、それと何か関係があるかもしれません。

この裁きと、出エジプト 10 章に記されているエジプトの 8 つめの災いは似ています。

第六のラッパ

最後に、第六のラッパの裁きです。(13-21 節)
この裁きでは、人類の三分の一が殺されます。(18 節)
ここには、殺りくに関わった騎兵の詳細や人数がいろいろと記されています。
けれども、ここで大切なのは、人類の三分の一が殺されるという事実です。
現在の推定世界人口から割り出すと、約 25 億人の人々が殺されるのです。
これは、日本の総人口の 24 倍というとても多い人数です。
史上最悪の大量殺りくになります。

20-21 節には驚くべきことが記されています。
殺されなかった残りの人類は悔い改めなかったとあります。
それまでどおり、神に背いて生き続けるのです。
この人たちの生き方がどのようなものかが、ここに記されていますが、現代社会はゆっくりとその方向に進んでいっています。
偶像崇拜があふれ、悪魔崇拜も広まります。

性的な不品行、殺人、盗みが日常となります。

21 節には、「魔術」という興味深い単語があります。

ギリシャ語の新約聖書では、「ファルマケア」という単語が使われています。これは、薬剤師を意味する英単語「ファーマシスト」の語源です。

これは、薬と関わりがあるという意味です。

この同じ単語が、ガラテヤ 5 : 20 にも登場します。

魔術では薬などを使うので、このような単語が使われました。

ヨハネは、終わりの時代に、魔術がふたたび盛んになり、あらゆる薬の使用が増えることも示唆しています。

驚くべきことに、現在、アメリカでは宗教としての「魔術」が目覚ましい増加を見せています。

正式に登録している魔女が 20 万人、無登録の魔女は 800 万人いると言われます。

近い将来、アメリカで 3 番目に大きな宗教が「魔術」になると推測されています。

黙示録に記されたことが現実となる日はそう遠くはありません。

この世がさらに悪くなるにつれ、聖書の神に対する人々の怒りはさらに大きくなります。

イエスの再臨と大患難時代が近づくにつれ、人々はサタンをあがめ、良いものを憎むようになります。

聖なる神が人類にこれほど厳しい裁きを下されるのも不思議ではありません。

では、最後にいくつか良い知らせをお伝えしましょう。

良い知らせは、史上最悪の時代に、神は 14 万 4000 人の伝道者に印を押し、すべての害から完全に守られることです。

この人たちについては先週学びました。

彼らは、8 章 9 章の裁きの間も働きます。

彼らが伝えるのは、イエス・キリストによる愛と赦しのメッセージです。

この時点ではまだ、人は神の御怒りから救われ、天国での未来という祝福を得ることができるのです。

多くの人は、福音に耳を傾けようとはしないようです。

けれども、神は彼らにチャンスを与えることを望まれます。そして、そのチャンスを受け入れた人もいます。

今日、あなた自身が、神との関係を正してイエスを信じようと思いませんか。

イエスはおっしゃいました。

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」

今日、神はあなたの心の扉を叩いておられるでしょうか。

神があなたに語りかける御声が聞こえますか。

あなたの心の扉の取っ手は内側にしかありません。

ですから、あなたが今日誰かと一緒に祈って、神に心の扉を開かなくてはなりません。

まだ手遅れにならないうちに、どうかそうしてください。

神が世を裁くために来られる日が、いつかやってきます。

英国や米国で昔から歌われている古い賛美歌にこのような歌詞があります。

1 遅れるな 遅れるな
イエスの声が呼ばれる間に
遅れるな
罪の中にとどまるなら
扉は閉ざされてしまう

3 時は過ぎ去る
死と裁きが近づく
イエスの御腕に飛び込もう
遅れるな
どうか考えてほしい

それから嘆いても遅い
遅れるな

- 2 美しい花もすぐに散る
若さもうるわしさも過ぎ去る
与えられた時間は限られている
遅れるな
神の御霊が語られるうちに
罪人よ もはや さまような
絶望の運命を受けないように
遅れるな

運命の境界線を超える前に
たましいが地獄でさまよう前に
遅れるな

- 4 罪人よ 警告の声を聞け
主を選ぼう
そうすれば 天に喜びが湧く
遅れるな
闇から光へと移され
イエスによって正しくされ
イエスのいのちを受け取ろう
遅れるな